高校生のヘルスリテラシーに関する研究～長命地域と短命地域の比較～

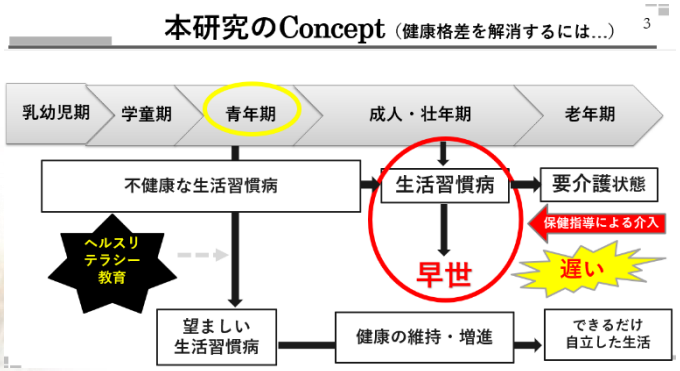
大学院博士後期課程　笠原美香
（指導教員　吉池　信男）

背景

短命地域（青森県）の早世を減らすには，壮年期より早い時期から健康を意識した生活習慣を身に付けるために，健康情報を活用するスキル，すなわち「ヘルスリテラシー」が重要であるのではないかと仮説を立てた．国内において高校生に焦点を当てたヘルスリテラシーの実態調査や親子の関連をみた研究は見当たらない．

目的

本研究では，高校生のヘルスリテラシー教育を推進することを目的とし，壮年期における死亡率の差が大きい青森県と長野県・滋賀県に在住する高校生とその保護者のヘルスリテラシーの実態を解析する．



研究内容・方法

- **研究デザイン**　自記式質問紙による横断研究
- **対象施設と対象者**　高校2年生とその保護者；青森県A市6校（合計806人），長野県B市・C市4校（合計978人），滋賀県D市・E市3校（518人）
- **調査項目**

高校生　個人特性（基本属性，将来の夢の有無，自己効力感，学習意欲），インターネット使用頻度，健康情報源，将来の生活習慣予測（自らが成人してからどのような生活習慣を送っているか; 喫煙, 運動, 飲酒, 体重管理），ヘルスリテラシースケール

保護者　個人特性（年代，教育歴，職種），インターネット使用頻度，インターネットで検索している健康情報，健診受診状況と保健指導に対する評価，受療状況とインフォームドコンセントに対する評価，現在の生活習慣（喫煙, 運動, 飲酒, 体重管理），ヘルスリテラシースケール

- **調査方法と期間**　自記式質問紙調査, 2018年7月3日～7月24日

研究成果

今回の分析では，短命地域（青森県）の高校生は長命地域（長野県や滋賀県）の高校生に比べてヘルスリテラシーや学習意欲は高く，望ましい将来の生活習慣予測をする生徒が多かった.保護者のヘルスリテラシーに差がなかったが，生活習慣に有意差が認められた.

能力としてのリテラシーに差がないが，健康情報の活用至る過程に課題がある．今後も引き続き分析を進め，親子間の相関や生活環境面との関連，ヘルスリテラシーが高い人の要因を探索していく予定である.